

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (九州)	良く なっている	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税後1年が経過し、その反動がある。近隣施設の閉鎖の影響で来客数が増えたこともあり、売上高は増加している。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・前月比で来客数と売上高は減少しているが、客の表情は明るくなっている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・客数は変わらないが単価が上向きで、やや景気が持ち直している感がある。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・4月中旬に駅ビルが完成し、下旬に県立美術館がオープンしたので、その効果もあって商店街の来客数が増えた。それをどう売上に結び付けていくかが課題である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・過ごしやすい天気になったおかげで、客の購買意欲が若干高まっている。母の日セールでの売上も、順調であった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は、やや天候に恵まれた。ゴールデンウィーク期間中に実施したイベントの成果が上がり、飲食店、焼き物店、土産店等は来客数が増えているのが目立った。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	来客数の動き	・単価はさほど変わらないが、来客数が増えているので売上も増えている。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・魚価が安く、うまく売れば利益が出る環境だが、来客数が少ないので売れていない。
		百貨店（営業統括）	単価の動き	・前年の消費税増税による買い控えの反動が一部の商品で出ているものの、力強さには欠ける。特に婦人物を中心とした季節商材の動きが、あまり良くない。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・夏日を迎えるのが早かったせいか、季節商材を中心に動きが良い。前年は消費税増税直後だったので、買い控えていたという客が多い。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・景気回復のアナウンス効果が出始めている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・販売量に大きな変化はないが、単価が上がっており、商品の選択基準が価格から質にシフトしつつある。今後、この傾向が強くなると考えている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食品の売上は、生鮮食品を中心に前年比102～103%で好調に推移している。前年の消費税増税による買い控えの反動がまだ影響しているのかわからないが、売上、客数とも順調に推移している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品が、前年比104%と好調に推移しており、やや良くなってきたと言える。
		スーパー（店長）	単価の動き	・前年は消費税増税の影響で消費が鈍っていたが、今年は8%に慣れたせいか、売上は順調に推移している。食料品は前年比106%。野菜の価格はまだ高いが、それでも青果の動きは良い。特に安売りをしなくても、値頃感があれば売れる状況で、デフレから脱却しつつあるのを感じる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・単価も上昇しているが、販売量も2～3%ぐらい増えている。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・前年の消費税増税による買い控えを差し引いても、前年をかなり上回って売上が推移している。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・販売量は、量販店が約8%の伸び、ローカルスーパーが10%の伸び、コンビニエンスストアがやや横ばいという状況である。依然として、食パンの販売量が伸びていおり、菓子パンは横ばい。3か月前と同様、前年よりは良いが横ばいで推移している状況である。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・来客数の増減はないが、商品単価は上がっているので売上は伸びている。ただし、フリーの客は減っている。
		衣料品専門店（チーフ）	単価の動き	・消費者の買上単価が二極化の傾向がみられる。大口のまとめ買いをする客も多いが、必要最低限の買物しかしない購買意欲が低い客もいる。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・薄型テレビ、エアコン、冷蔵庫等の大型商品の動きが良い。客数も回復の兆しが見える。		
自動車備品販売店（従業員）	販売量の動き	・前年は消費税増税の影響で売上が落ちたが、本年は影響がない。		
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	来客数の動き	・新規の来客数が、前年に比べてやや増えている。		

	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕(従業員)	販売量の動き	・購入する客の購買単価が、以前より上向きになってきた。売上高は前年比でまだマイナスだが、改善してきている。
	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・前年に比べ集客数及び客単価が約2%ほどアップしている。
	都市型ホテル(副支配人)	単価の動き	・インバウンドが、当ホテルだけではなく福岡のホテル全体の宿泊単価をととも押し上げている。
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・官民間問わず、予算の確保後の相談や提案要求の問い合わせが増えた。
	美容室(店長)	お客様の様子	・近くで新築の家が増えており、自分の家を建てようという話を若い人からも聞く。
変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・客の来店はあるが、購買に結びつかない。特に年金受給者の大半は、買い物にととも慎重だ。年金は減るばかりで、非常に厳しい状況である。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・3か月前は入園、入学、卒業、就職等を控えたシーズンだったが、5月はゴールデンウィークで家庭の出費はかなり多くなっているため、主婦の財布のひもは固くなっている。
	一般小売店〔茶〕(販売・事務)	販売量の動き	・消費税増税から1年経ち、消費者も慣れてきたようだが、まだ単価は低い。再増税に備えて節約している客もいるようだ。売上は例年並みを維持しているが、新茶の売上は減少している。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク中の衣料品販売が、若干低迷した。
	百貨店(営業担当)	単価の動き	・全店の購買単価は横ばいで推移している。お客様や自社カード会員については前年並を確保しているが、一昨年には届かず、いまだ購買意欲は回復していない。また、二極化も続いており、貴金属、画廊、婦人雑貨、時計、メガネ、家具、家電等の高額品は好調だが、主力となる婦人衣料が苦戦している。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・消費税増税後1年が経ち、買い控えを乗り越えて良くなっているが、ベースとなる景気自体は停滞しているように感じる。一部の富裕層は購買にきわめて積極的だが、一般層の購買意欲は変わらず、グロスで見ると、ここ数年はあまり変化がない。
	百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・売上見通しは、3か月前および前年同月よりも良い。3か月前も良かったので、景気の方向性は「変わらない」と答えたが、景気の水準は「良い」と言える。特にインバウンドの売上が前年比700%となった。客単価は非食品102.4%、食品105.8%、購買客数は非食品102.3%、食品100.4%で、いずれも前年割れしておらず、良い状況と言える。
	百貨店(店舗事業計画部)	お客様の様子	・前年は消費税増税がありイレギュラーだったので、前年比のブレは大きいですが、3月と比べても入店客数や買い方に大きな変化はない。ここ数年シーズン、婦人衣料の買い方がかなりシビアになっている。
	スーパー(経理担当)	販売量の動き	・原料価格の高騰による値上げや、野菜の価格高騰があるにもかかわらず、消費は落ち込んでいない。しかし、客数の伸び悩みや地域差があるのは否めない。
	スーパー(業務担当)	来客数の動き	・8月末の店舗閉店が決まり、テナントの退店が始まったため、客数が減少傾向にある。また、大規模な閉店売り尽くしセールが予定されているため、買い控えが見受けられる。
	コンビニ(経営者)	単価の動き	・客が必要な物以外は買わない状況が続き、客単価が前年より少し下がっている。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・ゴールデンウィークに、様々な販売促進施策を実施したが、売上は前年を下回ってしまった。人出が多い時期ではあるが、ショッピングセンターの出店が多く、客が分散している。
	コンビニ(エリア担当・店長)	単価の動き	・公共料金の支払をする客が増えたが、購買点数と客単価は伸び悩んでいる。
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・暑くなったり、涼しくなったりと天候が定まらず、客足が鈍った。
衣料品専門店(総務担当)	お客様の様子	・ボリュームゾーンである主婦層は、購買時の選択基準がととも厳しく、来店するものの購入に至らない状況が続いている。	
家電量販店(店員)	単価の動き	・3か月前と大きくは変わらない。売上等の数字は前年より良いが、前年が消費税増税の影響で非常に落ち込んだので、参考にならない。	

家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・閑散期ではあるが、客数が前年とあまり変わらないのが気にかかる。
乗用車販売店（代表）	お客様の様子	・知り合いの業者からはあまり良い話は聞かない。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・5月は福岡都市圏でのイベントやキャンペーンが順調で景気に回復感があるが、それ以外の地域の景気は良くない。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は底を打ち、値上げ基調だ。ふだん「満タン」で購入する客は、引き続き「満タン」で購入している。5月は長期連休があり期待したが、前年と比較すると販売量は前年並みである。
その他小売 〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・前年は消費税増税後の影響でマイナスとなったが、今年の4～5月は前年越えて推移している。6～7月まで同様の傾向がみられそうだ。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・この数が月間、売上に大きな変動はない。
高級レストラン（専務）	来客数の動き	・地元客は少なくなっているが、中国や韓国、台湾、米国等の観光客がかなり増えてきており、トータルで見ると前年と変わらない。県内の客の動きが悪いのが、心配である。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・産業革命遺産の世界遺産登録により、宿泊予約が多い。
観光型ホテル（専務）	お客様の様子	・外国人客は増えているが、日本人客の動きが悪くなっている。
都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・5月は毎年の定例行事で使用する客が多いので、売上傾向は前年とあまり変わらない。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・相変わらず、韓国・台湾からの観光客の勢いが、おう盛である。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・企業・団体の出張利用が、国内・海外とも好調である。そのこともあって、特に国内主要都市のホテルが慢性的に取りづらくなっている。
タクシー運転手	来客数の動き	・5月は閑散期だが、今年は例年よりも悪い状況だ。特に歓楽街エリアの動きが悪い。5月は観光シーズンだが、タクシーを利用するケースは全体の1割にも満たないので、我々にはあまりメリットがない。逆に、ふだんタクシーを使っている人がよそに観光に行くので、売上が落ちる。
タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークの反動が大きく、中～下旬は財布のひもが固くなり、売上増とはいかなかった。
タクシー運転手	お客様の様子	・タクシー利用が増えているように見えるが、実際は思ったほど売上が伸びていない。
タクシー運転手	来客数の動き	・新しく駅ビルがオープンし、客の動きに期待したのだが、ビルには客が集まるのに、周辺区域の動きは良くない。タクシーの乗車率は低かった。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節的に閑散期であり、想定通りの販売量である。
ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・天候不順もあり、ゴールデンウィーク後、来客数は思ったように伸びなかった。県外からの旅行客が来場し、単価はやや上がっているが、地元客は安い近場のゴルフ場に流れており、厳しい状況が続く。
競輪場（職員）	販売量の動き	・販売額に、顕著な変化がない。
競馬場（職員）	販売量の動き	・売上は前年を安定して上回っている。3か月前と比べて変わらないが、前年同月と比べると良くなっている。
美容室（経営者）	販売量の動き	・景気は2月上旬まではやや低迷していたが、少しずつ上昇しつつある。しかし、末端まで届いておらず横ばいの状態が続いている。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	競争相手の様子	・売上・客数は前年比プラスだが、労働力の確保が厳しく、在宅介護サービスを提供できる範囲に、限界が見えつつあるように感じる。人手不足により前年業績が悪化している同業他社もある。
設計事務所（代表表）	来客数の動き	・来客数はそれほど変わっていない。
やや悪くなっている 商店街（代表者）	来客数の動き	・明らかに来客数が減っている。

		一般小売店〔青果〕（店長）	競争相手の様子	・野菜の入荷量が多過ぎて、キュウリ、ピーマン、トマトの相場が前年の6～7割に下がっている。客単価が上がらないので、厳しい状況が続いている。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・4月の大型商業施設開業により、周辺地域への集客が増え、消費喚起に繋がっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・4月からは来店数が、極端に少なくなってきた。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売台数が伸びない。主力であるコンパクトカーの低迷が影響している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・チラシ等をよく配布しているが、反応があまり良くない。初めての来店客には値引きや特別なサービスをしないとイケない。客の様子を見ると、安い店をリピートしているようだ。
		音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・当教室はそうでもないが、運営母体の経営状況が少し悪くなってきたので、生徒が減っていくかもしれない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・分譲マンションや戸建ては、当初の計画より建設コストが高くなり、売価が合わない。利益を下げて売るしかなく、厳しい状況である。
	悪くなっている	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・4月末以降、来客数の減少が続く、前年比約7%減となっている。衣料品、宝飾関連等の高額商材の売上も低迷し、客単価も下がっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べると来客数が減っている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークや4月の統一地方選挙の影響があり、接待や会食の機会が少なかったようだ。後半になって少しましになったが、かなり厳しかった。
企業動向関連 (九州)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・閑散期に入ったが、そこそこの受注がある。中国での生産に見切りをつけ始めた企業が多いようで、中国や東南アジアの工場で大量生産しているメーカーからも約15年ぶりに声がかかった。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・2月から3か月間連続で、前年を超えた。受注件数が増加し、1件当たりの受注額も微増している。受注件数が直近3か月の平均で前年比112%と増加。商業施設の家具需要が増えた結果である。
		金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・東京オリンピック関連の設備投資についての引き合いが、増加傾向にある。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注はここしばらく安定しており、若干上向きになっている。特殊な機械の発注などもあり、業績も良くなってきた。3か月先ぐらまでは、この傾向は続きそうだ。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・同業他社の最近の業績や今後の見通し等よりもやや良くなっている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・予算計画通り、今月より生産数量の増加が見込める。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・雇用、所得環境が好転し、消費者のマインドが改善してきている。百貨店や家電販売店などでは比較的高単価な商品の売上が増加傾向にある。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・設備投資資金の底堅さが続く。
		経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・こだわり品や品質が良い商品が、価格を下げなくても売れている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・多くの取引先から、業績が好調であると聞いている。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度に入ってから勢いは少し鈍ってきたが、計画に対して大きな落ち込みはない。前月弱かった居酒屋とスーパーは元に戻ってきた。鶏肉の不足感は続いており、プロイラーを中心に冷食メーカーからの引き合いが多い。
		農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・今年度は販売と生産の兼ね合いから、在庫が少ない状況が続いている。荷回りもよい。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・端境期であるが、この季節にしか採れない原料を使った商品が好調であった。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・生産量や販売量に変化がない。

	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・波佐見陶器市は好調で、自社の売上も2割ほど伸びたが、有田陶器市では約1割減だった。通常の取引の受注が少なくなってきており、今後の新商品の動向が鍵を握っている。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新年度の計画が思うように進まない。客も新しい経営計画を作っている最中で、動きが鈍い。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いや見積の数は多いが、金額の面で受注につながるものが少ない。	
	その他製造業（産業廃物処理業）	受注価格や販売価格の動き	・円安により販売価格が高めだが、物量が減っているので、トータルでは変わってはいない。	
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・販売量も変わっておらず、客の様子も変わらない。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主の経営状況は、特に良いとも悪いとも言えない。物量が大幅に増減しているわけでもない。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業も個人も、そう変化はない。よい方向にも悪い方向にも向かっていない。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業、特に小売業は売上の低迷が続いている。利益がほとんど出ない企業が大半である。	
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・レジャー施設や旅行の広告出稿が前年を超えたが、売上のベースとなる通信販売や化粧品関連の動きが鈍く、全体では前年比90%前半にとどまる見込みである。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・今年4回目の公開セミナーを実施中であるが、参加者数が増えない。以前はもっと活発な動きがあった。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	それ以外	・毎年のことではあるが、5月はいろいろと支払が多い月である。固定資産税や自動車税、また3月決算法人が一番多いので、その納税等で個人も企業も資金面が厳しくなる。今年は特に消費税増税後初めての確定申告で、消費税の納税が大変多い。資金繰りが行き詰まっているところが増えている。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の地方創生の業務を請けることのできるコンサルタントが、実績と人員の多い大手に絞られている。市町村は他の事業をあまり予算化していないので、実質的に大手以外のコンサルタントは仕事がない状況である。	
	やや悪くなっている	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁への依存が大きいのだが、そこからの発注がないので非常に厳しい。いまは着工中の工事があるが6月には完成するので、早く受注にたどり着きたい。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・郡部という地域柄、景気への寄与度は建設業が高い。公共工事や民間工事の発注量が減る一方で、資材価格の高騰や人材不足等、経営課題を抱えており、景況感は良くない状況である。
		不動産業	受注量や販売量の動き	・学生の1人暮らしが少なくなった。親が子供の1人暮らしの費用を出すのが難しい状況にある。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	受注量や販売量の動き	・機械類の補助金を活用したリース取引が一巡し、投資案件が減っている。客先に今年度の設備投資計画をヒアリングしたのだが、売上堅調で増収増益の企業が多いのに、大きな投資計画は少ない。今の設備の修繕を重ねて設備投資額を絞っているようだ。
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・各社が人員確保に出ている。積極的に新規採用活動を進めている他、人材流出を防ぐための雇用条件の向上がみられる。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・注文が前月に引き続き増えている。事務関係は少し落ち着いているが、接客、販売の注文が多い。また、正社員を前提とした紹介予定派遣の注文も増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・福岡市内では中国、韓国からの観光客が特に目立つようになった。買物客も多く、収益の柱になっている。また雇用では、ベトナムやミャンマーからの留学生が働く姿も見られるようになった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同期比で14.1%増となっていることから景気は上向きであると判断できる。

	学校 [ 大学 ] ( 就職支援業務 )	求人数の動き	・企業の採用活動が依然活発である。自社での説明会の開催案内も多数届けられている。
変わらない	人材派遣会社 ( 社員 )	採用者数の動き	・求人依頼数は3か月前と横ばい。求職者数も増減なく横ばい。
	人材派遣会社 ( 営業 )	雇用形態の様子	・契約社員を含む正社員の正規雇用の動きは、増加傾向にある。
	求人情報誌製作 会社 ( 編集者 )	求人数の動き	・求人情報掲載件数は、前年を下回って推移している。マーケット全体は前年を上回っており、地元企業の経営が厳しいのではないかという見方をしている。
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	求人数の動き	・正規雇用の拡大が見えない。
	職業安定所 ( 職員 )	求人数の動き	・パートを含む新規求人数は、前年同月比で18.1%減で、489人減少した。2か月連続減少で、減少幅は過去1年間で最大となった。求人に占める割合が大きい業種では、建設業、製造業、サービス業は増加、運輸業、郵便業、卸売・小売業、医療・福祉は減少した。
	民間職業紹介機 関 ( 社員 )	求人数の動き	・派遣就業希望者であっても、正社員が決定したのでそちらで就職という方が相変わらず多い。
	民間職業紹介機 関 ( 支店長 )	求人数の動き	・求人数は前年同期に比べて、ほぼ横ばい状態である。
	学校 [ 専門学校 ] ( 就職担当 )	求人数の動き	・求人数は前年比105%で推移している。IT分野、建築分野、自動車整備分野、リハビリ分野など理系人材に関する求人数の伸びが顕著である。
やや悪く なっている	-	-	-
悪く なっている	-	-	-